

つながる、つなぐ発見



社会福祉法人 昂

ART(s) さいほく
ART(s) さいほく



社会福祉法人 昂

ART(s) さいほく
ART(s) さいほく

厚生労働省

「令和 2 年度埼玉県障害者芸術文化活動普及支援事業(特色型)」
報告書

目次

P2 はじめに

P3-4 埼玉県西北部における相談支援事業所等との連携

- ①日高市障がい者創作活動合同作品展への協力
- ②グッズ作成についての相談
- ③アトリエ体験

P5-6 発表等の機会の創出【Art sessions in さいほく】

アートセッション in 本庄インスタライブ
アートセッション in ひき

P7-8 関係者のネットワークづくり

「知ろう！見よう！障害のある人たちのアート活動について」
ワークショップ
つながる町の応援者！

P9 人材育成研修会

はじめに

本事業の採択を受け2年目の取り組みとなりました。今年度は、新型コロナウィルスが世界を席卷し、その対応を模索する日々が続く中、事業がスタートしました。

これまで当たり前だった日常が大きく変わり、障害のある人々の生活も大きな変化を余儀なくされました。芸術文化も同様に、命を守ることが優先となり、思うような取り組みが出来ませんでした。

しかしながら、映像やオンラインの活用が進んだことにより、その場にながらも芸術文化の取り組みに参加できるという新たな方法の発見もありました。また、SNS を活用することで、埼玉県内にとどまらず、海外のフォロワーと直接つながり、新たな機会を得るということもありました。ソーシャルディスタンスの推奨により、物理的な距離は取らざるを得なくなりましたが、人々の根底にある「繋がりたい」という欲求が再発見され、心の距は近づけることになったのかもしれません。

来年度も引き続きもどかしい日々が続く見込みですが、可能な限りの「これまで」の方法と渦中に見つけた「これから」の方法のハイブリッドで、これからも障害のある人々の芸術活動の普及啓発に取り組んでまいります。



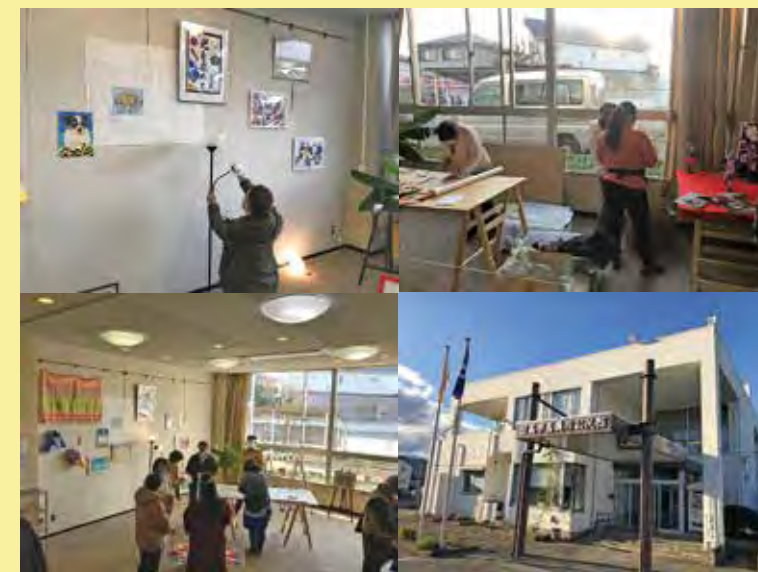


埼玉県西北部における 相談支援事業所等 との連携

ART(s)さいほくでは、埼玉県西北部を活動エリアとし、相談支援事業所や地域の支援者との連携に力を入れ、障害福祉サービス事業所に所属しない在宅の人たちの芸術活動サポートに取り組んでいます。今年度、日高市エリア3名、比企郡エリア4名、本庄エリア2名、新しい作家の紹介を受けました。



全員で創った暖かみある作品展



①日高市障がい者創作活動合同作品展への協力 (日高市高麗川公民館)

昨年度に続き、日高市障がい者相談支援センターが行う作品展の実施協力を行いました。

この作品展の大きな特徴は、展示作業やスタッフ業務、チラシ配りなど、企画の多くに作者本人が関わっていることです。期間中は地域の多くの人たちが訪れ、市も会場探しの協力を行ってくれるなど、手作り感があって暖かい、素敵なアイデアが詰まった作品展でした。



グッズで形に残すことの嬉しさ

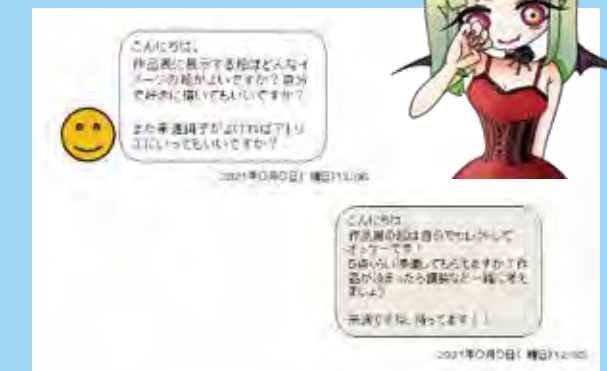


②グッズ作成についての相談

明るい色使いとかわいらしいモチーフで、幸せに満ちた A さんの絵。「作品を何かの形にしたい」という A さんの相談に、「作品内で必ず描かれる『幸せの鳥』をグッズにしてみてもどうか」と提案しました。

さっそく相談支援専門員と A さんで考え、缶バッジを作成して持ってきてくれました。初めてのグッズで、弾むような口調で嬉しそうにされており、私たちのアトリエでも試験販売をする運びとなりました。

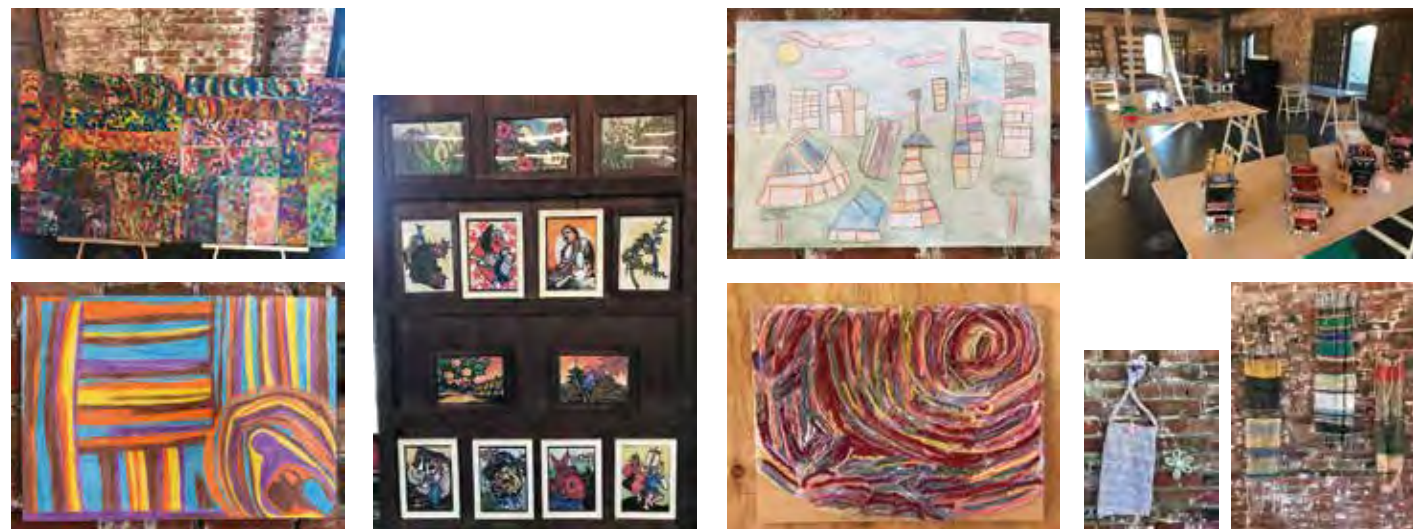
アトリエで過ごす、 20代女子の今



③アトリエ体験

普段は自宅で、手芸やキャラクターの創作をしたり、自作の歌を SNS に UP したりしています。

相談支援事業所を通じて GROOVIN を見学されて以来、体調の良い時はアトリエに来て過ごしています。アトリエでは、いろいろな表現方法にトライして絵を描いていますが、「今日は絵を描かないでお話をしたいな」と、ファッションやメイク、好きなタイプなどなど、20代の女の子の今をスタッフと楽しそうに話して過ごすこともあります。作品制作の相談も、インスタグラムのメッセージで送ってくるなど、今風なやりとりもしています。



発表等の
機会の
創出

Instagramを
活用し、
作品たちを発表

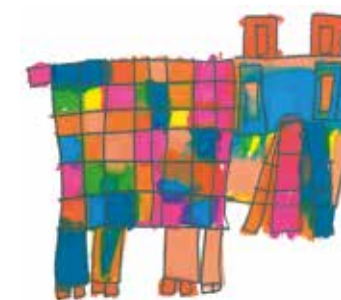
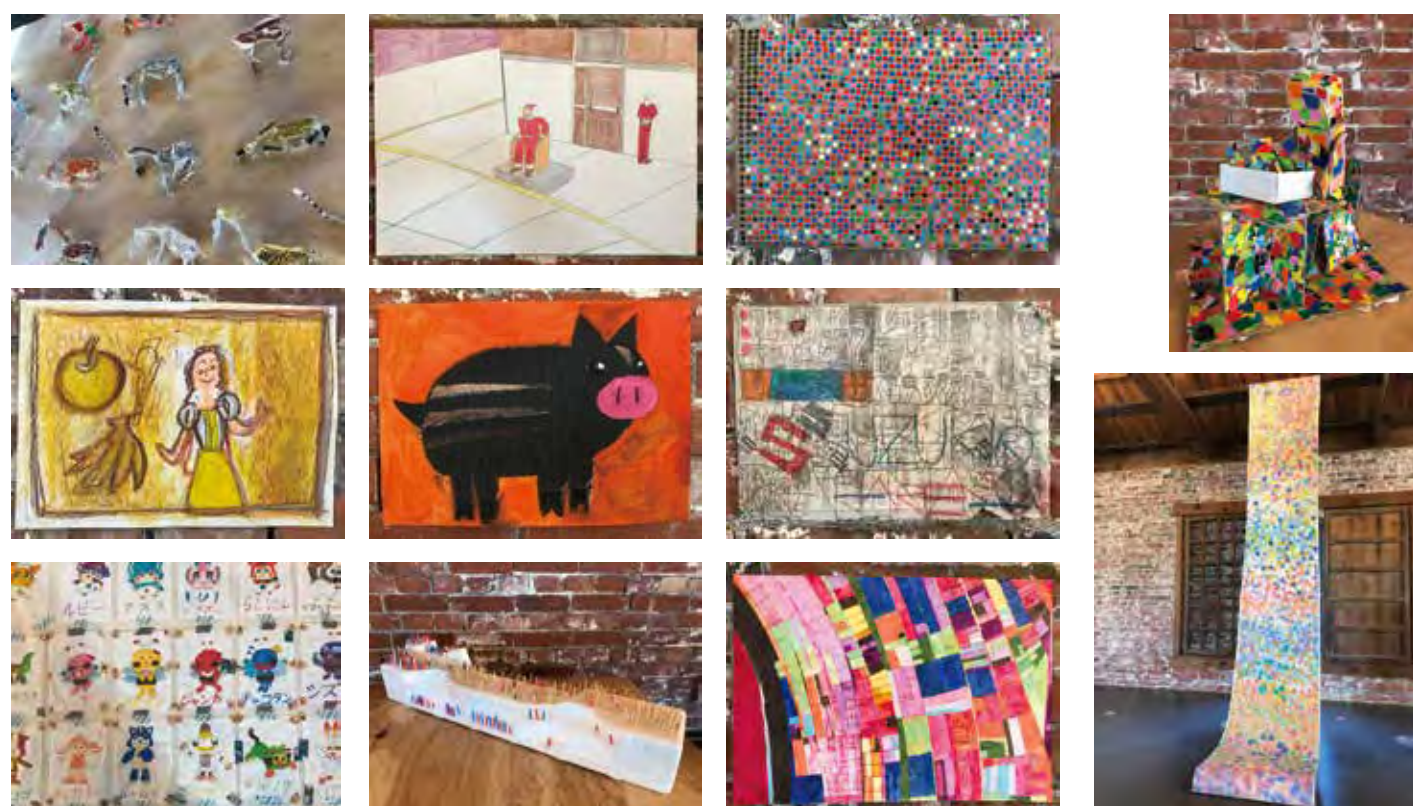
ART(s) さいほく
【Art sessions in さいほく】

新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの障害福祉事業所は、利用者の命や健康を守るための感染防止に取り組まねばならず、活動の自粛等も余儀なくされました。そうした中でも制作はコツコツとされてきました。

作品展の中止も検討しましたが、この状況下で粘り強く制作された作品たちのことを思い、「なにかしらの形で発表できないか」と考えた結果、展示をInstagramのライブ配信で行うことにチャレンジしました。市も会場使用について協力していただき、同エリアの事業所の作品提供等も得て実施することができました。



東松山市・比企郡エリアの障害のある人たちの作品展として計画しましたが、緊急事態宣言の発令により延長、再開時期に宣言の延長があり中止。



関係者の ネットワークづくり

魅力を言葉にすることで、楽しく相互理解

「知ろう！見よう！障害のある人 たちのアート活動について」 ワークショップ

埼玉県西北部エリアは、芸術文化活動に取り組む障害福祉事業所間のつながりが少ないため、今年度はネットワークづくりを重点策として取り組みました。新型コロナウイルスの感染拡大で、福祉事業所への訪問や取材などが難しい状況でしたが、オンラインを活用し、ワークショップ・ミーティング開催しました。

ワークショップでは、国や埼玉県の障害者芸術文化活動の紹介をしたり、各事業所から持ち寄った作品の魅力について語り合いました。作品の魅力を言葉にすることはとても楽しいことでもあり、作品のことをより深く知る機会にもなります。それらを通じて課題や悩みも語られ、参加者同士でアイデアやアドバイスの交換も活発にされて、ネットワークづくりのよい第一歩となりました。（作品展の見学ツアーなども計画していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により中止。）



つながる町の応援者！

新型コロナウイルスの感染拡大で、作品展の会場確保が難しくなり、人を集めてのイベント等の自粛など、発表の機会を創出することに工夫が求められました。私たちだけでは限界を感じ、「地域の知恵に頼ろう」と地域メディアのひとつであるケーブルテレビに相談をしました。すると、月に一回地域の情報コーナーにて作品紹介をおこなうという嬉しい答えをいただくことができました。市役所等でも放映され、多くの人に観てもらえることができました。たまたまテレビを見ていた方が、その回に出演した方の小学校時代の恩師で、後日アトリエに訪れ、数十年ぶりの再会を果たすなどのドラマも生まれました。

新型コロナウイルスの感染拡大は、これまで当たり前と思っていた生活スタイルを一変させました。しかし、今回のケーブルテレビの協力は“その町ならではの力・魅力”がたくさんあることを感じさせてくれました。同時に、「私たちART(s)さいほくも地域の資源となるように取り組んでいきたい」と思いました。



人材育成 研修会

人材育成研修として、「知ろう！障害のある人たちのアートのコト 街のコト 表現のコト」をテーマに研修会を企画。障害福祉分野だけでなく他分野で活動する講師を招き、地域の人たちとともに学ぶ研修会を予定しましたが、新型コロナウイルス緊急事態宣言の発令・延長により中止となりました。

知ろう！障害のある人たちのアートのコト 街のコト 表現のコト

日時：2021年1月30日（土）

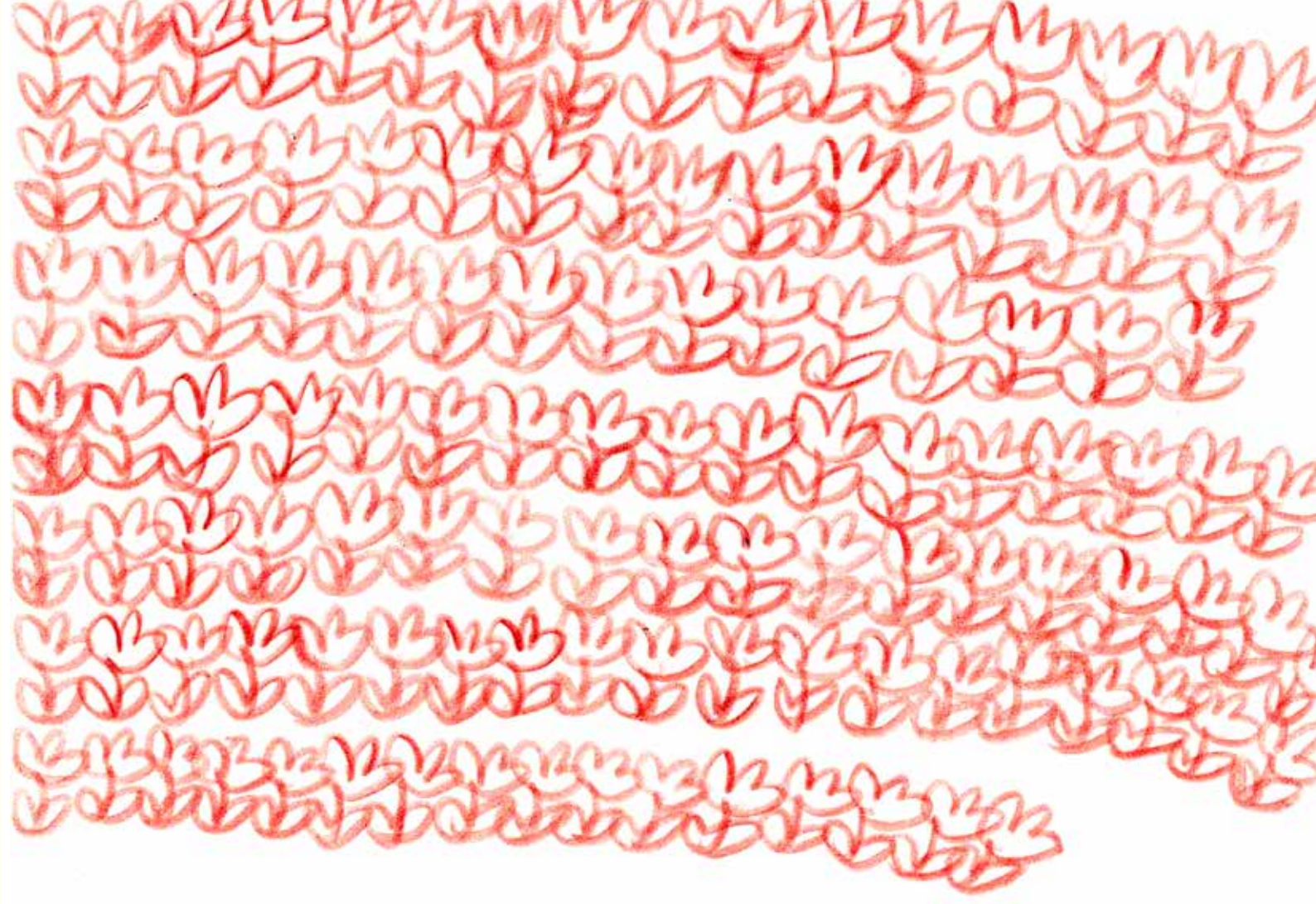
場所：小川町図書館

講師：鹿野淳氏 音楽ジャーナリスト 出版社(株) FACT 代表 VIVALA ROCK フェス主催・プロデューサー

：アサダワタル氏 文化活動家 社会福祉法人愛成会品川地域連携推進室コミュニティアートディレクター

：平山雅士氏 NPO 法人小川町創り文化プロジェクト（まちぶん）事務局長

中止には
なりましたが…



厚生労働省「令和２年度埼玉県障害者芸術文化活動普及支援事業（特色型）」報告書

社会福祉法人昇 ART(s) さいほく

〒355-0077 埼玉県東松山市上唐子 1532-5 まちこうば GROOVIN' 内

TEL / FAX 0493-81-4597

メール arts_saihoku@subaru-wc.com

ホームページ <https://www.subaru-swc.com/~groovin/>

インスタグラム <https://www.instagram.com/groovin4597/>

フェイスブック <https://www.facebook.com/pages/category/Arts---Entertainment/ARTs%E3%81%95%E3%81%84%E3%81%BB%E3%81%8F-116048856469497/>

社会福祉法人昇 <https://www.subaru-swc.com/>

地域や町を知り、 連携して行う 作品展

打合せの際、まちぶん平山氏に昔の建物が残る小川町を歩きながら、町の歴史や魅力をたくさん教えていただきました。各所に残る文化的な建物や町並みを見るにつけ、この町で行う作品展へのイメージは膨らむばかりでした。

障害のある人たちの芸術文化活動の普及には、地域の様々な人たちの理解や協力が必要不可欠です。それ故、地域や町のことを知ることはとても大切だと思います。今回の平山氏との町巡りは短時間でしたが、その重要性を感じる貴重な時間でした。残念ながら研修会、作品展は中止となってしまいましたが、必ず同町での作品展を再度トライしたいと思います。

